

# 「維新」政治

## Q&A どうしみる

Q 「独裁」といふけれど、改革のスピードが違ふ？

「維新」の特異さが際立つのは、その中身とともに、手法です。前代表の橋下徹氏が著書『体制維新—大阪都』で「独裁」「マネジメントの真相」として取り上げているとおり、その手法は批判的になり、破綻に直面します。大阪市を廃止・解体する「大阪都」構想の住民投票をめぐり、法定協議会で協定書案が否決されると、突然、市長を辞職して「出直し市長選」の拳に出ました。この「独り相撲」に「勝利」すると、法定協議委員を差し替え、

## 大阪でやってきたこと その3

# 独裁的手法と破綻

せ、無理やり、住民投票（2015年5月17日）を強行します。

中身とともに、こんなやり方に市民が「ノー」の審判を下したのは当然でした。



「思想調査アンケート」は違憲との判決を喜ぶ原告、弁護団、支援者の人たち—3月25日、大阪市・大阪高裁前

と試算されています。

司直の断罪を受けたのは、橋下市長による大阪市職員への「アンケート」という名の「思想調査」でした。市長の「業務命令」として、「あなたを組合や演説会に誘ったのは誰か」などを答えさせるものでした。勇気ある市職員の告発をはじめ大阪、全国から批判が湧き起こり、労働委員会、大阪地裁、大阪高裁ともに「憲法上の権利を侵害」しているとの断じ、橋下市長を謝罪へと追い込みました。

旧WTC（ワールドトレードセンター）ビルを85億円で購入し、大阪府咲洲（さきしま）庁舎としたものの、東日本大震災でも大揺れ。耐震補強が迫られる一方、空家率は3割。大手前の府庁との二重庁舎をこのまま持ち続けると30年間で1201億円かかる